



また、文化施設としての「りぶら(図書館交流プラザ)」が岡崎公園北側に立地し、商業施設としては東岡崎駅周辺と国道1号北側の伝馬町線に沿って商店街が連なっており、岡崎市での主要な中心市街地エリアを形作っている。



図-2 乙川リバーフロント地区現況土地利用まとめ

(2) まちづくりに関する課題の整理

現況調査の結果から、エリアごとに課題の整理を行った。結果を以下の通り整理した(図-3)。

- ① 岡崎城・岡崎公園：樹木により岡崎城が見えない、サイン等のデザイン不統一、公園内の車道が危険
- ② 乙川：樹木により水面が見えない、プロムナード整備、水質改善、人が憩える場所の整備、その他利活用方法の検討
- ③ 東岡崎駅周辺：車中心のまちづくりから人への転換、全国展開の飲食店舗・風俗店の進出、地元商店街の活性化
- ④ 二十七曲り：歴史性を感じることができない、サイン等のデザイン向上
- ⑤ 商店街：経営者の高齢化、空き店舗の増加、活動の衰退、魅力的な商店づくり
- ⑥ ネットワーク：八帖地区～岡崎城、東岡崎駅～康生地区

(3) 今後のまちづくりの検討

岡崎市及び岡崎活性化本部では、「乙川リバーフロント アイデアコンクール」と題し、市民からのイラストや作文を募集した。総数2,475点もの応募があり、

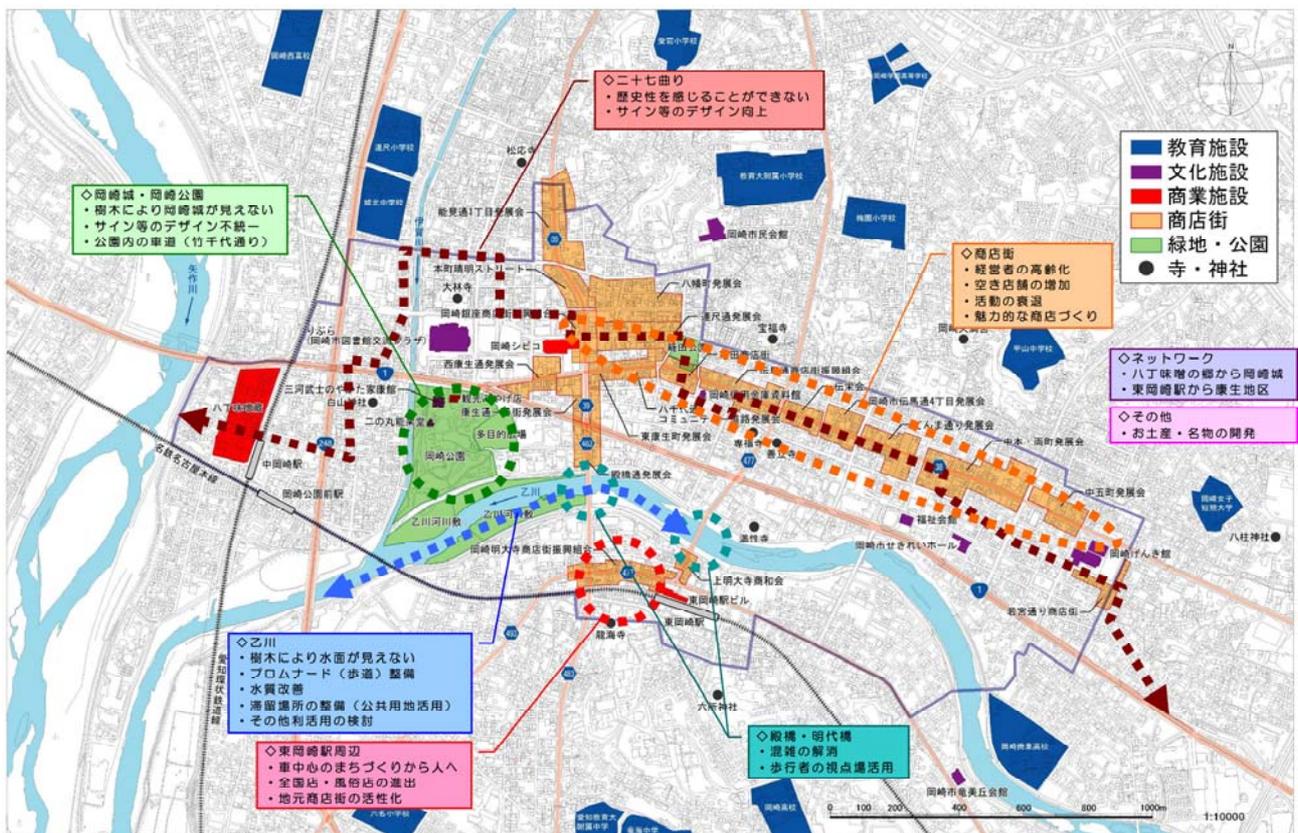


図-3 乙川リバーフロント地区の課題

様々なアイデアや乙川に対する想いが寄せられ、応募作品の中から「リバーフロント賞」「グッドアイデア賞」「審査員賞」が選ばれた（図-4）。



図-4 アイデアコンクール応募作品の一例（リバーフロント賞イラストの部）

整理した現状や課題、アイデアコンクールの結果を踏まえ、今後の乙川リバーフロント地区のキーワードとして「景観」「歴史と文化」「水辺空間」「歩行空間」「観光」の5つを抽出し、更に、岡崎市民の生活向上や市民共有のシンボルづくり、観光拠点としての魅力向上、官民連携による観光振興・商工振興の観点から、以下の基本方針を定めた。

①新人道橋の設置、②徳川四天王石像の設置、

- ③殿橋・明代橋の補修・保全、
  - ④川の駅・リバーベースの整備、
  - ⑤照明計画・景観計画の検討、⑥岡崎公園の再整備、
  - ⑦河川空間の利活用、⑧歩行者空間の整備、
  - ⑨ホスピタリティ・エクステリア施設の設置、
  - ⑩実証実験の実施、⑪観光事業（ソフト事業）の検討
- また、基本方針に基づき、具体の整備メニューを乙川リバーフロント地区魅力向上策（案）として提案した（図-5）。

#### 4. おわりに

岡崎市は、歴史や乙川の豊かな流れなど、誇るべき貴重な地域資産を有している。加えて、今後、徳川家康公顕彰400周年（平成27年）、岡崎市市制100周年（平成28年）と、大きな節目を迎える。折しも昨年度から、「オカザえもん」がブームになるなど全国的に注目されていることもある。今回の検討を契機に、市民と行政が一体となって、岡崎市が目指す観光産業都市に向けた取り組みが行われることを期待する。

本検討にあたり、岡崎活性化本部、乙川リバーフロント部会、乙川リバーフロント懇談会の皆様には熱心にご議論いただきました。また、岡崎市の職員の皆様には貴重なデータや検討にあたっての助言をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

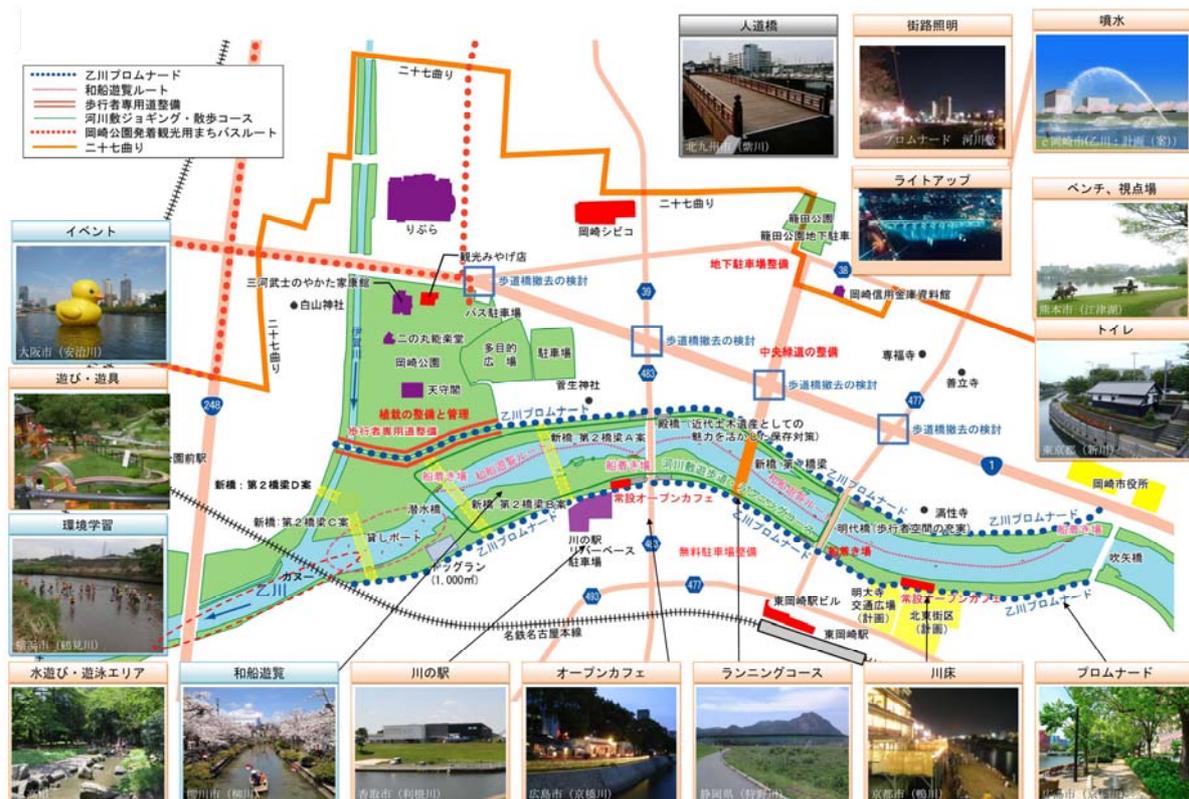


図-5 乙川リバーフロント地区魅力向上策（案）